

乳幼児の子育てをする母親への臨床心理学的地域援助に関する研究：母親の居場所という視点から

鬼塚, 史織

<https://hdl.handle.net/2324/2198524>

出版情報：九州大学, 2018, 博士（心理学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏名	鬼塚 史織			
論文名	乳幼児の子育てをする母親への臨床心理学的地域援助に関する研究 —母親の居場所という視点から—			
論文調査委員	主査	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	黒木俊秀
	副査	九州大学大学院人間環境学研究院	教授	南 博文
	副査	九州大学大学院人間環境学研究院	准教授	古賀 聡
	副査	九州大学大学院人間環境学研究院	准教授	小澤永治

論文審査の結果の要旨

本論文は、乳幼児期の子育て支援における臨床心理学的地域援助の具体的方策を構築することを目的とする研究について報告している。

第1章では、乳幼児期の子育てをする母親への臨床心理学的地域援助の実践に向けて、乳幼児の子育てをする母親の抱える問題と、それに関わるこれまでの子育て支援に関する研究について概観し、現況の子育て支援の限界や臨床心理学分野における今後の子育て支援の課題を挙げ、本論文の構成を示した。

第2章では、地域の子育てグループにおける母親の居場所について、育児不安と、母親としての意識との関連やその具体的特徴について量的側面（第1節）と質的側面（第2節）から探索的に検討した。

第3章では、第2章の結果を踏まえ、母親の居場所について過程から捉える研究を実施した。居場所という視点から、子育てグループに参加することによる母親の体験を過程から捉えることによって、育児不安の軽減や母親としての意識の変容との関連について検討を行なった。子育てグループの参加者への面接調査の分析を通して、第2章で得られた居場所の特徴や居場所感を包含したその場を居場所とする過程が得られた。母親の意識や態度の変化とは、自分の子育ての課題の解消から始まり、その場で居場所感を抱きながら母親として子どもと過ごすことにより、個人としての自分と母親としての自分の調和が実現される居場所を得て、他者の子育てを支援する意識や態度が芽生えるという相互支援活動の基盤が母親に育まれる過程であることが示唆された。

第4章では、第3章において示された相互支援活動の基盤となる他者の子育てを支援する意識や態度が芽生える体験に着目した。その体験をより詳細に捉えるため、子育てグループの一参加者から運営に携わる支援者となった母親の参加を深めていく体験を居場所という視点から明らかにし、地域の子育てグループにおいて展開されている母親の相互支援の様相を検討した。その過程において、子育てに悩む一母親が運営に参加するという転換期を迎え、支援をする側へと変化する姿が捉えられた。この背景には、当事者同士という枠組みの中で、子育てをする一母親としての学習と、地域の子育て支援者としての学習という2つの学習過程が考えられた。また母親の居場所は、子どもとともに受容され、本来の自分を取り戻す場所であることに加えて、担った役割を達成し、充実感が得られるというような居場所へと変容することが示唆された。

第2章～第4章までの研究から、母親が子育てグループに居場所感を抱くことにより、子育てのゆとりやその場において他者との関係性の深まりが生まれ、それがグループ全体で一緒に子育てをしているという体験へとつながることが示唆された。また、母親としての意識に関して、子育てグループが居場所となることにより、「自己性」の尊重が体験され、運営の役割を担うことにより、他者を支援する側へと役割が展開する中で、母親の主体性が再生されて「母性」と「自己性」の葛藤状況が止揚され、その調和が実現されたことが推察された。以上のことから、その場が居場所となる過程には、当事者の主体的な活動や相互の関わりが重要となることが窺え、支援者はその過程を理解し、当事者同士の関わりから生じる体験を奪わないように、周辺的に支えることが有用だと考えられた。

第5章では、地域で展開されている子育て支援事業に携わる臨床心理士として、第4章までの調査研究を生かし

た支援，つまり母親の居場所づくりの支援を試みた。アクション・リサーチの研究手法のもと，実践を試み，それを検討し，その実践の課題を踏まえた新たな枠組みで次の実践を展開した。

最後に第6章では，総括として乳幼児の子育てをする母親の臨床心理学的地域援助に関して，居場所，育児不安，母親としての意識という視点から総合的な考察を行ない，臨床心理学的地域援助の具体的方策についてその一方策を示した。最後に，対象者が限定されていた点や，援助可能な水準を十分に認識し，今後は本実践を土台としながら，新たな支援方法を検討すること等を課題として挙げた。

以上のように，本研究は，乳幼児の子育てをする母親の臨床心理学的地域援助に関して，居場所，育児不安，母親としての意識という視点から包括的に検討し，臨床心理学的地域援助の具体的方策を示唆した点において，臨床心理学的に意義深い成果を挙げた。

よって，本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。